

「鴨居連合自治会創立30周年と共に」随想

弥 栄
いざさか

1・町内会から連合自治会

古い文献によると、鴨居町内会は昭和47年4月に設立され初代会長岩岡藤作氏と記してある。ちなみに当時の戸数は1082世帯となっている。その後、JR横浜線の複線化と地域の宅地開発が進み人口も爆発的に増加する事態と変化して行く中で多くの新住民が入居して来た。地元鴨居では、急増する人口（世帯）の受け入れと町内会の在り方検討がしばし話題となっていた。

昭和62年頃より町内会から連合組織へ移行改革が検討された。

その結果、昭和63年4月1日に鴨居を八地区に分区して鴨居連合自治会が誕生した。初代連合自治会長黒滝 稔（故人）、第一地区自治会会長高洲昌之（故人）、第二地区自治会会長岩岡 勇（故人）、第三地区自治会会長岩岡正雄（故人）、第四地区自治会会長黒滝 稔（故人）、第五地区自治会会長柳下 勤（故人）、第六自治会会長柳下三郎（故人）、第七自治会会長金子光雄（故人）、第八地区自治会会長織裳収蔵（故人）諸氏と決まる。その後の連合自治会会長は第二代会長柳下 勤、第三代会長吉田昌美、第四代会長柳下利一、第五代会長板垣憲明、第六代会長木村 赳と続き、30年を経て今日の祝賀の催事を迎えるに至る。

改めてこの間に携わり、ご苦勞された行政、関係団体、役員諸氏に対して厚く感謝を申し上げる次第です。

2・自治会加入の動機

縁あって鶴見区より鴨居に転居して来たのが昭和48年、それまで活動して来たボーイスカウト運動を鴨居でも出来ないかと、当時の柳下徳孝町内会会長に相談に伺った。

会長は活動内容を興味深く熱心に聞かれ、設立について協力する旨をいただいた、後に自治会への加入の話をされ、即加入させていただいた事が動機だった。

3・自治会活動

その後、中村に在った鴨居会館へ頻繁に通い自治会の下働きから始まった思い出がある。当時は殆どが地元の人で、私の様な「よそ者」新住民は現相談役狩野氏の奥様と二人しか居なかった。その中でも役員全員が快く迎えて呉れたことが心地よく今日まで続けられた大きな賜物ではないかと思う。諸会議の議題原稿をガリ版で書き、謄写版印刷、青焼きのコピー機で印刷した。会長の原稿記述が難解部分が多くて苦勞した。仮に良かれと原稿文章を訂正しても会長はガンとして原稿通りに書くようにと指示され戻された記憶がある。

活動の状況を当時から現在まで振り返って見ると、脈々と受け継がれてきているものを感じる。それは、議題内容を徹底的に比較検討し討議し結論を出し、決定したことに対して以後いかなる異議も加えない気風が受け継がれていることを実感する。それだけに責任は重

定例会後は毎回宴席となった。日本酒以外のものは無く冷酒で2升位空けていた。特にたいしたツマミも無く、口々に「畑のサシミ」と称した漬け物が多かった。兎も角皆さん楽しく良く飲み口角に泡を飛ばして語り合っていた。

一番難解と不思議に感じた事は「屋号」と言う呼び名で呼び合っていた。例えば、連合会長黒滝 稔宅は「豆腐屋」、副会長柳下 勤宅は「御回し（おんまわし）」と旧家の殆どが屋号があり、何か親しみを感じて全てを覚えるのに時間を要した。

4・各種団体

地元の行事として古くから農事に関するものが主だった。稲荷講、念仏講、杉山神社例大祭を筆頭に獅子舞、消防団、農業協同組合下部組織、収穫の前後、豊作の感謝、等々であった。新住民の増加とニーズの対応も加速した中で多くの各種団体が誕生した。

近年までは多くの行事を自治会の年間計画で取り組んで来たが、各種団体が順次その企画を担って行くようになった。現在51団体が連合自治会の承認下にある。

「各種団体とは・・・と聞かれる時に答えるのは「連合自治会が認知した団体」と明文化してある。団体が増え、行事も多くなり地域が生きよいつき各行事には多くの参加者が集うようになった。その反面、最近では「行事が多すぎる・・・」との声も聞こえて来る。

この事については両論あると思うが、私自身は行事開催に自信を持って賛同します。

緑区内11連合自治会で連合自治会が核になって各団体を仕切っているのは鴨居連合自治会のみではないかと思う。

5・杉山神社

柳下徳孝会長宅の帰りに偶然杉山神社に参拝することが出来た。一目見て「廃墟」のように感じたのが第一印象だった。何人かの人に聞いてみると余り関心が無い返事。特に夜半、神社を通り抜ける人も気味悪く逃げるように過ぎて行くとの声が聞こえた。

私の郷里にも古くからの社があり、幼いころから祖父母に連れられお供えを持参して参拝した思い出があり、懐かしく改めて神社の存在について取り組み始めた。ボーイスカウト活動の一環として初めに手掛けたのが周辺のゴミ清掃からはじめた。次に大晦日にテントを張り、自宅から持参した清酒と蜜柑とで参拝者に振舞ったが参拝者は少なかった。数年続ける内に少しずつ変化して来た。篝火籠を造り、灯をとともし、廃材を持ち込んで暖をとり、甘酒と土産品を増やし参拝者に感謝した。その結果、今日の杉山神社の繁栄と存在を改めて確認する事が出来る。

杉山神社運営も、それまで在った世話人会から昭和53年5月奉賛会の設立につながった。

これを基に、戦没者の霊を祀る慰霊碑が建立され初めての奉賛会式典が挙行された。

多くの関係者が参加する中で、遺族代表として金子勝尚氏は戦死した亡き父に語りかけるような言葉で読み上げた答辞に涙した。

6・中央会館

平成4年旧鴨居会館が道路計画用地として移転計画が発生し、移転先として当時神奈川県会議員三好吉清氏のご配慮と努力で鴨池大橋下にできる空地に会館建設用地の確保が行政との間で約束された。この事は以後の「会館建設」に関わる重大な取り決めであった。

第一地区自治会と第五地区自治会との会館として本格的に建設計画に入った。

平成15年8月第一回「仮称：鴨居第2会館建設準備会」が柳下 勤会長名で招集された。

私は、平成17年、第三代連合自治会長に就任し建設準備会へ加わった。永年施設勤務等で公金（補助金等）の用途については充分経験があり、特にこの間の補助金に対する監視が厳しさを増していた。改めて準備会に対して軌道修正を図り共同入札方式を取り入れた。

以後、検討すること諸会議日数100回を要し定例会48回、行政との綿密な打ち合わせ、指導を得て平成17年11月に落成式を迎える。15年の月日を要した。

参 考

1・建設委員

委員長 黒滝 稔氏 副委員長 柳下 勤氏

委員（順不同） 松倉完次氏 小原 卓氏 島田敏夫氏 黒滝 剛氏 佐々木一氏 赤柄忠昭氏 柳下和洋氏 石川嘉彦氏 小池郁夫氏 諸氏でスタートしましたが途中で変更があり。岡本幸美氏 庄司登志子氏 吉田昌美となる。

2・資 金

- ① ・建設総額 55,00万円
- ② ・資金不足 15,00万円（当初予算より、消防車庫、消防器具置き場等に費用がかさむ）
- ③ ・均等10年返済
- ④ ・借入れ先 横浜信用金庫鴨居支店
- ⑤ ・名 義 吉田昌美

黒滝 稔氏を中心に進められた会館建設は決して平穩、安易に進められたものではないことも記して置きたい。多くの建設委員、関係者、行政が心血注ぐ会議を重ね論議、検討等する中で多くの障害を乗り越えて完成に辿り着いた経緯をここに記し後世に残す。

7・ボーイスカウトの設立と経緯

明治40年（1907）産業革命後の、荒廃していた英国で青少年の将来を憂い「青少年の健全育成」に立ち上がった創始者がベーデン・パウエル公の提唱で今日まで全世界で活動展開している。大正11年（1922）日本で「少年団日本連盟」として誕生し、戦時中の一時期を除き今日まで全国発展を遂げた。

昭和53年2月、前述した通り鴨居における発団は当初、顧問八木下 正氏(町内会役員)、初代育成会会長柳下徳孝氏(町内会会長) 初代育成会会長大川正雄氏(町内会役員) 初代団委員長柳下 勤氏(町内会役員) 他諸氏によりボーイスカウト横浜第95団が緑公会堂で華々しく発団式を挙行了。会場を埋め尽くす参加者に区長、県、市議員、友団等々の参加であった。地元の理解と支援を背景に活動を展開し、発団2年後にガールスカウト神奈川第78団、5年後にボーイスカウト横浜第117団(知的障碍児、者・白根学園)と見る見るうちにスカウトも増え大きくなり分蜂(分団)を検討した。昭和52年の暮れ、八木下 正氏(顧問)、大川正雄氏(後援会長)、金子克尚氏(財政担当)、吉田と徒歩で中山連合自治会長斎藤孝夫宅に参上し分団の受け入れを懇願した。

昭和53年2月ボーイスカウト横浜第125団が中山連合自治会会長斎藤孝夫氏のお骨折りで中山町に発足した

以後四ヶ団は結束し、各団は、地域または組織の支援と協力を得てそれぞれの得意を基に活動を展開してきた。

多くの団は地域とは関係なく、特定の指導者か同好者等が中心に発団組織されていた。その為地域との関係が希薄で繋がりが無く、地域団としては永年疑問に思ってきた。その為、団を設立する時は地域の認知が最優先することを基に自治会の門を叩いた。この時代、地域では「ボーイスカウト」と言う新語は初めて耳にする場面があった。それでも、真剣に運動の内容、活動の成果、組織の運営等々に強い関心を示し、絶大の協力を受けた。

このことから95団の発団動機の地域への声掛けは正解であったと改めて確認した。

「地域貢献」「地域奉仕」を活動の一環として、自治会、神社他の行事に積極的に参加して来た。そのことで杉山神社の隆盛にも大きな貢献を重ねて来たのではないかと回顧する。地域の理解を背景に伸び伸びとした活動を繰り返す中でスカウトが成長した。

昭和57年2月20日95団より2名の最高位スカウト「富士スカウト」が誕生した。吉田昌司(認証405)、木村修値(認証406)が横浜スタジアムで受賞し、その後東宮御所、経団連にて歓待を受ける名誉を授与した。ちなみに、ボーイスカウト誕生の英国ではクイーンズスカウトとして国王より授与される。米国ではイーグルススカウトとして大統領より授与され晩さん会に招待を受ける。いずれにしても発団間もない新設団よりの輩出は日本連盟、神奈川連盟、横浜地区として大きな名誉であった。吉田スカウトは現在95団団委員長を拝命しているが心友木村修値スカウトは昭和63年10月23日逝去される。断腸の悲しみである。

少子高齢化は青少年団体をもろに関わり、スカウトの減少は否めない状況の中でも「そなえよ常に」をモットーに日々の活動に専念しているのが現状である。

顧みれば、今年連合自治会が創立30周年を迎える慶事に沿い、ボーイスカウト横浜第95団も創立40周年を迎える年に改めて永年のご協力とご支援に心から感謝申し上げます。